

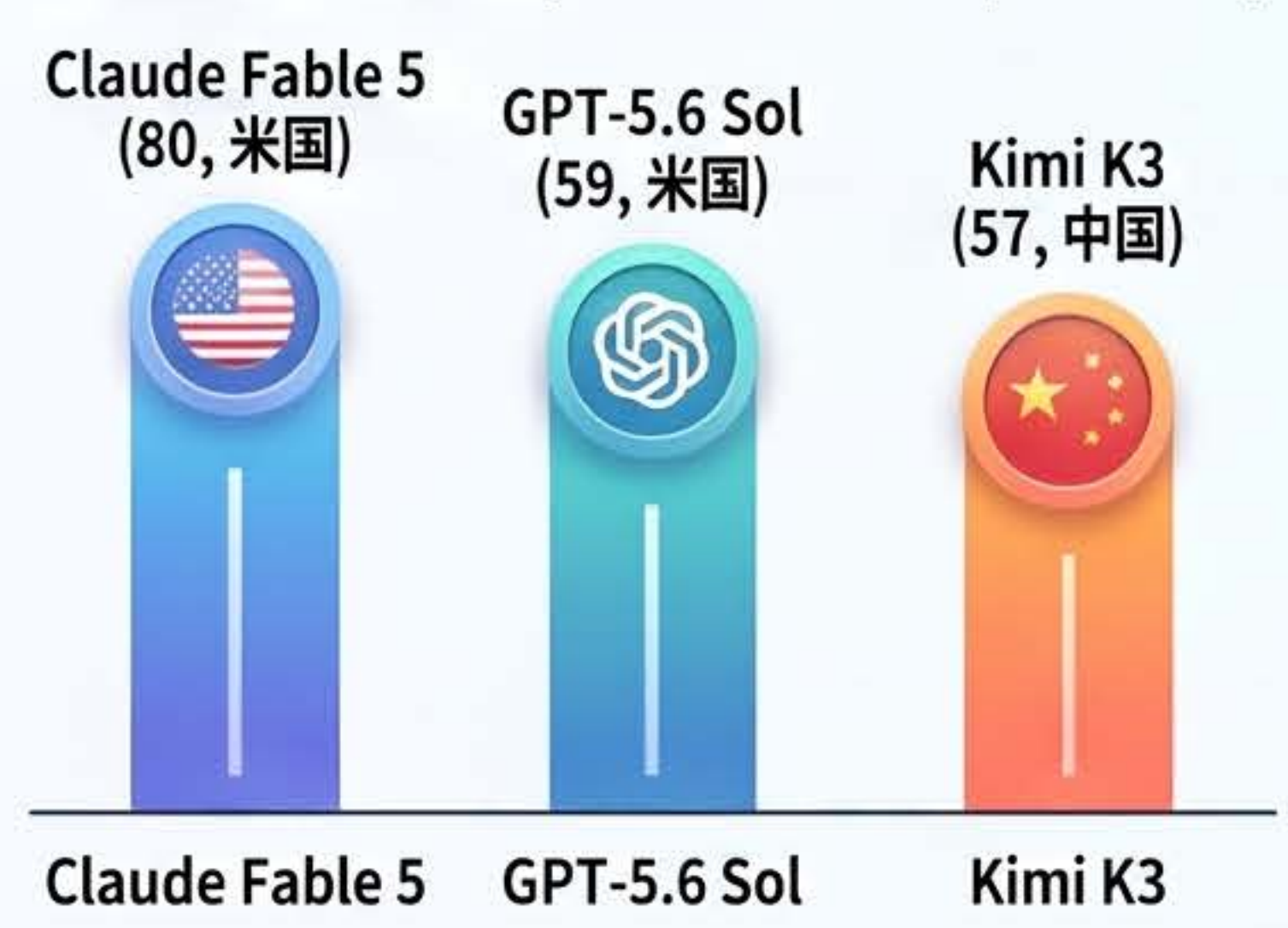
中国製フロンティアLLMの台頭：日本企業が取るべき「複線型」実装戦略

米中LLMの性能差が縮小。データ機密性とコスト効率に基づく戦略的な使い分けが求められる。

性能の現在地：米国製との「実質的な差」の解消



独立評価指数 (Artificial Analysis v4.1)



特定の実務タスク (Web開発・長文読解) では中国製が先行。
Kimi K3がWebDev Arenaで替位を獲得など、用途別では米国製を上回る場面が増加。

圧倒的な「低コスト」と「オープン重み」による普及。
DeepSeek等は米国製より極めて安価であり、オープン重みの公開により企業が独自にカスタマイズ可能。

実装戦略：データ分類に基づく「複線型」活用

